

# Lasting Kyoto

ラスティング キョウト

## 私たち高校生が思う 残したい京都



### 地域情報誌「ハンケイ500m」

自分たちの足でつけたオリジナルな情報。本物を知る「京都人」のためのフリーマガジン。毎月特集ページでは、1つのバス停を拠点に半径500mを歩いてまわり、編集部が見つけた多様な価値観の人たちを紹介します。京都のユニークな情報やカルチャーコラムなど、内容も充実。京都市営地下鉄全駅のほか、商業施設、カフェ・飲食店など各所で配架中！



### KBSラジオ番組「サウンド版ハンケイ500m」

人気フリーマガジン「ハンケイ500m」「おっちゃんとおばちゃん」のこぼれ話とサウンドロゴが人気のラジオ番組。KBS 京都ラジオ (FM94.9MHz/AM1143KHz) はもちろん、Podcast、radikoなどでいつでもどこでも聴取可能。放送は、毎週土曜日午後5時～6時。「ハンケイ500m」編集長の円城新子と、サウンドロゴクリエイターの原田博行がパーソナリティを務める。



企画・発行：京都府立鴨沂高等学校

〒602-0867 京都市上京区寺町通荒神口下ル松蔭町131

電話：075-231-1512

FAX：075-231-0220

担当：京都文化科 岩崎俊之 島田雄介

編集・制作：株式会社ユニオン・エー（フリーマガジン ハンケイ500m発行）



# 鴨沂高校 紹介

歴史／建物／美術

鴨沂高校は「新英学校及び女紅場」として1872(明治5)年に開校し、その後、女学校及び女紅場、京都女学校、京都府高等女学校、1923(大正12)年には京都府立京都第一高等女学校と改称し、1948(昭和23)年に学制改革により京都府立鴨沂高等学校と改称され今日に至っている。昨年150周年を迎えた。

公立女学校の草分けとして有名な学校だが、設立当初は男子生徒も英学を学んでいた。1874(明治7)年に男子生徒は、英学校に移り、その後、英女学校及び女紅場となった。

1900(明治33)年には創立当初の九条家河原邸(上京区土手町通丸太町下ル)から、現校地(上京区寺町通荒神口下ル)に移る。この地は



平安時代に、藤原道長が法成寺を建てたあたりで同校の校舎や施設改築等のおりに、法成寺の瓦と考えられるものなどが発見されている。また、1948(昭和23)年、新制高校になった年に歴史クラブが創設され、京都、滋賀などにおいて、遺跡の発掘調査などを活発に行った。校地内で発掘されたものとこれらの活動によって、本校には多量の考古資料が保管されることになる。これら、コンテナ数十箱にも及ぶ資料の多くは、現在、京都府京都文化博物館が管理している。

正門は開校当時から使用されており、鴨川沿いに建てられていた九条家河原邸のものを使用している。



この正門は京都府暫定文化財に指定されている。現在は、正門の北側にある通用門を通常は使用している。この正門は、年に2回、入学式と卒業式の時に開かれる。

2018(平成30)年、古き良きものと新しいものが融合する新校舎が完成した。茶室は九条家河原邸から移築され、現在も使用されている。また、茶室の隣

に併設されている旧作法室は「旧行啓記念館」と呼ばれている。明治天皇の皇后である昭憲皇太后が何度かお越しになり、その際に御座所として使用されたのが名前の由来である。

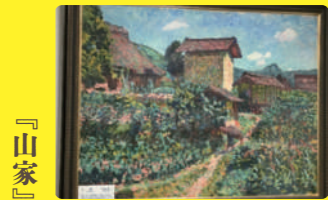


## 所蔵美術作品

美術作品は、観て眺めるだけでももちろん楽しい。しかし、作品について様々なことを知ってから観るともっと楽しい。鴨沂高校が所蔵する美術作品の中から、太田喜二郎氏と上村松園氏の作品について紹介したい。

### 太田喜二郎氏作品

〈太田喜二郎〉 1883(明治16)年12月1日、京都市上京区の織物商の家に生まれる。幼い頃から絵が好きで、京都府立第一中学校の図画教員の影響で、洋画を志す。中学卒業後は東京へ出て、東京外国語学校で英語を学びながら、白馬会洋画研究所に通う。また、翌年には東京美術学校に入学し、黒田清輝、藤島武二らのもとで洋画を学ぶと共に、東京外国語学校英語科を卒業したのち、仏語科に入学しフランス語も学ぶ。その後、1908(明治41)年に卒業すると同時に、黒田清輝の勧めでベルギーへ留学する。エミール・クラウスに指導を受けながら、ガン(ヘント・ゲント)市立美術学校でも、洋画を学ぶ。1913(大正2)年の帰国後は、点描による作品を次々と発表し、受賞を重ねる。しかし、順風満帆に見えたものの太田氏は1917(大正6)年を最後に、点描表現を棄て、平たく塗るような画風へと変化する。そして、その後も作品発表を続け、関西洋画界の中心人物として活躍し続ける。



1916(大正5)年に描かれた作品。ベルギーに留学し、帰国した後文展の花形作家として注目されていた時代の作品。この絵は、京都府北部の風景を描いたものである。一目見てわかるように、印象派らしい点描表現を用いた油絵である。しかし、大正6年ごろを最後に、点描表現を棄て、平たく塗り込めるような描き方へと変化していく。



1933(昭和8)年に描かれた作品。この絵は、点描表現ではなく、写実的手法を用いて描かれている。

### 上村松園氏作品

上村家は、三代にわたる京都画壇の日本画家であり、松園氏の息子松篁氏、孫の淳之氏は花鳥画を描いている。松園氏は、美人画を描き、女性の美しさを追求した。〈上村松園〉 1875(明治8)年4月23日、京都市下京区に生まれる。本名は、津禰。1887(明治20)年、京都府画学校に入学するが、翌年に退学し、鈴木松年の画塾に正式に入塾する。第三回内国勲業博覧会に出品した「四季美人図」で一等褒状を得る。1948(昭和23)年、女性初の文化勲章を受賞する。



#### 『夕暮』

1941(昭和16)年に描かれた作品。この絵は、「母親の愛情」をテーマにした作品である。モデルとなっているのは松園氏の母親であり、幼い頃の記憶に刻みつけられた母親の働く姿を暖かく柔らかな表現で表している。少し開けた障子の間から姿をのぞかせて、夕日の光に照らして針に糸を通そうとしている。絵を眺めていると「もうちょっと、ほんのこれだけ…」と言われているように、松園氏の思い出が蘇るような不思議な気持ちになる。

#### 『講堂の緞帳』

2018(平成30)年、新校舎が完成した際、本館3階の講堂に、同窓会から緞帳が寄贈された。原画は、松園氏の孫で本校卒業生でもある上村淳之氏が描いたもので、春夏秋冬の四季を表現している。



太田喜二郎氏と上村松園氏について調べたことを通して、二人の絵に対する想いや表現の違いを知った。

松園氏は、女性の恋心や母親の愛情を女性の目線で格調高く、繊細に表現することにこだわり、それを表すための細やかな工夫が感じられる。太田氏は、留学で得た点描表現を日本の風景に用いて、日本画と西洋画の融合を目指したのではないかと思われる。しかし、その後、元の日本画に近い画風へ戻したのは、点描ではなく、平たく塗る画風が日本の風景には合っていると考えたからではないかと思った。

日本の美人画を描いた松園氏と日本画と西洋画の融合を目指した太田氏は、どちらも自身の画風を追求し、確立していった。制作した際の背景を知ることにより深く作品の理解が深まり、鑑賞を楽しむことができるとわかった。

## ごあいさつ

手にしていただいた方へ

この冊子は、2023(令和5)年度京都府立鴨沂(おうぎ)高等学校京都文化コース3年生33名が、京都の文化を担う方々の思いや人となり、また京都を考える手がかりとなりそうなことなどについてまとめたものです。取材に応じていただいた方々をはじめ、関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

私たちの鴨沂高校は、2014(平成26)年度入学生から京都文化コースを設け、全校生徒を対象とする文化体験(1年生全員対象)や、歴史の舞台となった現場を見学するといった取組(京都文化コース対象)を行なってきました。また、古書籍・芸術作品や、150年を超える長期間にわたって行われてきた教育活動など、有形・無形の様々な財産が受け継がれています。

この冊子のタイトル“Lasting Kyoto”は、生徒の発案で、京都の文化が長く続きますように…という意味を込めています。本校はもちろんのこと各学校の文化や、京都の文化が末永く生かし続けられることを願っています。

拙い記事ではありますが、最後までゆっくりお楽しみください。

2024(令和6)年2月

京都府立鴨沂高等学校京都文化コース一同

## Lasting Kyoto INDEX

目次	02
ごあいさつ	02
鴨沂高校紹介(歴史・建物・美術)	03
く文化を紡ぐ人々 その思いにアクセス 「京都文化体験活動」担当講師の方々への取材	04
取材テーマ「華道」「茶道」	04
取材テーマ「和装」「能」	05
取材テーマ「組紐」「美術」	06
取材テーマ「食文化」「和菓子」「京料理」「お茶」	07
取材テーマ「京都の歴史」	08
特集「こんな京都もありますよ」 「京都の地名をリスケット 記憶に残ってしまうコインパーク」	10
「愛されてもう/まだ10年 作り手と受け手の思いが紡がる」	12
国際交流(文化交流)	14
編集後記	15



文化を紡ぐ人々 その思いにアクセス

取材テーマ

華道



「華道は花の命の大切さを学ぶことができる」。そう話す城野眞理子先生は、池坊京都支部の支部長。どんな生き物にも命があり、大切に思うべきだと考える素敵な女性だ。祇園祭のストリートギャラリーいけばな展で、また三十三間堂で行われる春桃会で、城野先生は様々な場所で花を生け、見事な作品を生み出している。現在は、学生の体験授業や、華道クラブの指導でも「花の命と向き合う」ことの大切さを伝えていく。城野先生は高校から華道をはじめた。「伝統文化で命あるものを扱うのは華道だけ。花には命があるから、自然を愛でるだけでなく、決

花には命があるから、多くを学べる。

断力や、命を扱う大切さも学べる」と華道の魅力を語る。海外支部もある池坊はグローバルに活動を行っている。「外国人観光客も体験に来られます。華道のニュアンスを外国語で伝えるのは難しいけれど、弟子には中国人やオーストラリア人もいます」と微笑む城野先生。季節の花を扱い、花選びで個性を出すのも華道の醍醐味なのだそう。城野先生の好きな花を聞くと、「特に好きなのは夏の蓮。咲く時期が短いけれど凄く綺麗です」。城野先生は、今回、夏の文化体験に華道講師として参加され、ヒマワリ、リンドウ、アスター、フトイ、ナルコユリの5つを選ばれた。中には細い葉もあり、梅雨時や雨に打たれた様子も再現された。「花は力をくれる。季節の花を感じて、華道から色々なことを学んでほしい」とメッセージを下された。



取材テーマ

茶道



本文化の代表格、茶道。その流派の一つ、裏千家の本間宗寿先生にきていただいた。北海道室蘭市出身の先生が茶道を始めたのは、高校1年生。初めて体験したお茶席で、「こんなお茶が点てたい」と思い、すぐに茶道部に入部。卒業して札幌でも茶道を学んだ。以来約70年、一度も稽古を休まず向き合い続けた。先生にとって茶道は自分自身。かつて先生は大病を患い「死ぬかもしれない」という思いをした時「子供がいない私が『残せるもの』は茶道しかない」と気づいたそう。そして、「今の自分では足りない」と、茶道を学ぶため京都に通った。今年9月で89歳。昭和54年くらいから鴨沂高校で教え、44年以上が経つ。その間、もう3回も校舎が変わった。先生は長年、裏千家のお家元に通って培ったものを、すべて稽古に来る皆さんに譲っていきたいそう。最後に先生は「歳をとると少食になり、疲れやすくなる。すると話が入ってこないこともある。でも若い時は体力もあり、色んなものを吸収できる。だから、時間を大事にしてほしい。それは自分を大事にすること。せつかくの時間を居眠りでは勿体無い」と、若者へのメッセージをくださった。本間先生の長年の茶道への想いを感じ、先生のような人が紡いでき

時間を大切に。それは自分を大切にすること。



たからこそ、茶道は日本を代表する文化になったのだと思った。茶道に限らず、自分の人生について真剣に考えるという姿勢は、見習いたいと思った。

取材テーマ

能



村晴久先生の二代前より能を始めたといい河村家。第二次世界大戦後、河村先生の父親が学生時代(立命館大)「能」の精神性を知ってほしいと様々な学校で能楽部を作るよう働きかけ、京都学生能楽連盟を設立し、初代委員長になった。昭和31年に「河村能舞台」が作られ、同年に生まれた河村先生は親の姿を見て、能楽師になることを決意された。



力を知り、自信をもって世界に発信できることが大事。そして、お互いの文化を尊重し合うことが、世界の平和、みんなの幸せにもつながる」と、河村先生は語る。

精神的に学校での部活動の指導もされ、次の世代に引き継ぐ活動もなされている。「能」は最低限、あらずじ・謡の流れを理解した上で鑑賞してほしい、エンターテインメントは親切だが、「能」は不親切。それは想像を働かせてほしいからです。文化芸術活動はなんでもそう。少しの予習が必要。是非とも能に触れてほしい」とメッセージをいただいた。



人間とは何か、人間にとって何が大事かを表現するのが「能」。

取材テーマ

和装

興味があれば、まずは着てみてください。

物には興味があるが、着たいと思っても敷居が高い。そんな日本で最初にできた着付け教室が「服部和子きもの学院」。全国各地に分校があり、令和6年10月に、開講60年になる。栃本久子先生は、娘の卒業式に振袖を着せてあげたいと思いつけ講師に。成人まで折にふれ着物を着る機会が多かった矢野和美先生は、短大卒業後に着物業界に就職、その後この学院に出会い着付け講師になったそう。着物とは無縁の人生だった大脇美幸先生は、子供の卒園式で自分で着物が着たいと思い、着付け講師になった。印象に残っている着物経験も先生ごとに様々。「母の遺品の薄いグレーの加賀友禅を着てレッスンに行くと、『素敵』と絶賛された。着物は代々受け継がれるもの。母の思いも着こなせたように思う」と、栃本先生。祖母の着物を母から譲り受けた大脇先生は、「おはしよりが取れないくらい丈が短くて、祖母の体型を懐古できたのが嬉しかった」と話す。着物文化を残すためには、若い世代がどんな時に着物を着たいのか、まず知ることが大切だと先生方は話す。「着物は一枚の絵画のよう。趣味趣向を凝らしてそれを纏うことは日本独特の文化。友人の結婚式で、時間をかけて着こなせば喜んでもらえるでしょ



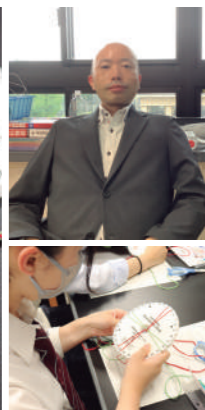
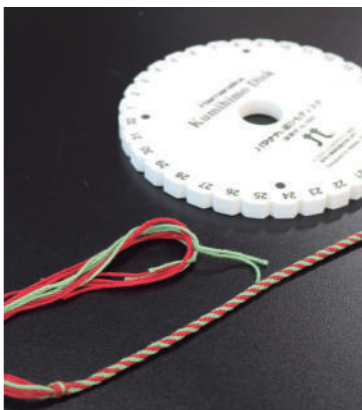
う」と矢野先生。先生が共通して話されたのは「着物に興味を持ったら、先に延ばさず一度羽織って欲しい」ということ。それが着る側、作り手側、双方の伝承につながる入り口になる。なかなか触れる機会がないので、これを機に着物を着てみたいと思う。



# 組紐

時代に合わせてのらりくらりと形を変え、寄り添っていく。

今回、組紐についてお聞きしたのは、京都工芸繊維大学准教授の山田和志先生。専門は高分子プラスチックで、プラスチックの特性を活かしている一つとして組紐の研究もされている。社会生活で欠かせない繊維工業は、主に織物、編み物、組紐の3種類に分けられ、織物、編み物は主に衣服として知られている。組紐は伝統工芸品で、かつては仏教と共に仏具、仏典の付属である飾り紐として伝来し、その後江戸時代に武具や刀剣の飾り紐として用いられた。現在は和服の帯締めが主な用途で、あまり身近ではない。一方で繊維工業における組紐は数本、数種類の糸を組み上げて作られる製品の総称でもあり、靴紐や鞆の紐としても私たちの生活を支えている。伝統工芸品としての組紐の魅力は、シンプルながら奥深い。数本、数種類の糸を一定のパターンで交差させると綺麗な模様が生かび上がり、その人だけのオーダーメイド模様も可能だ。「少ないものから無限を生み出せるのが魅力」と、山田先生は語る。それを知るには、まず体験すること。説明書通りの模様でも、そこには確かなオリジナリティが存在する。でき上がったものはオ



ンリーワン。綺麗な模様が手の中で組み上がる楽しさを体験すると、引き込まれる。山田先生は「時代に合わせたのらりくらりと形を変え、寄り添っていく」ことが良いとされる。数本の糸を擦る技術は縄文時代からあり、装飾品としての組紐はそれが進化していったもの。ゴルフクラブのシャフトや飛行機のボディなど、時代を超え私たちの生活に関わっている。組紐のエッセンスは最先端技術にも確かに内在し、今後多くの分野においてさらなる発展が期待できさるだろう。

# 美術

千年も前からある美術は、今でも進化を遂げている。今回は、アーティスト

と兼京都府京セラ美術館でラーニング・プログラムを担当されている藤田龍平先生に、深くお聞きした。「作品をよく見て、よく聞いて、感じて、疑問を持ってほしい。まず伝えたいこととして、先生が話されたことだ。人が何かに興味を示すときは「好



「なんでだろう」を分かち合う。

き」という気持ちはもちろん、「なぜ？」という問いもある。造形にも鑑賞にも、これが必要な感性なのだそう。芸術の重要要素は、見るもの聞こえるものから学び、真似ること。自分の外にある美を参考にものを作るのが造形の基本なのだ。美術造形の専門家と鑑賞教育の専門家は、分けて扱われる部分もあるが、先生はレアケースな状況にいるという。「つくる側でもある僕が、美術館で教育普及活動を同時に行なっている」と自身の立場を話された。美術作品の良さや面白さを他者に伝え、分かち合うためには「わかっていることだけではなく、見た後の『なんでだろう』を伝えて交流することが大切」と藤田先生。「作品の正解を安直に伝えるだけで終わらず、当時の社会背景や、現代の視点からの疑問（なんでだろう）をシェアするとより有意義な意見交換が発生する」と話された。このように美術作品と関わる中で、先生は多様な人に美術館を楽しんでもらおうと様々な取り組みをされている。見える人も見えない人も聞こえない人も互いに対話を重ねることで、深く作品を鑑賞する対話型鑑賞会がその一例だそう。「名画との縁結びシート」というラーニングツールには、「空想でも想像でも良いので、みなさまの考えを書き残してください。（正解はひとつではありません。）」とある。自分が書いたシートを綴って残すことができる「ほんまかファイル」にはたくさんの方の来館者の「なんでだろう」が集まってきたという。

# 食文化

## 和菓子

唐

から伝来した唐菓物が、京都の茶の湯で出されたのが「京菓子」の発端。そこから数種の餅菓子、半生菓子、干菓子などが作られ、京都独自の発展を遂げた。その「京菓子」を現代に伝える保木進先生は、父の和菓子屋を継ぎ、現在は京都の和菓子文化を広める活動や体験学習の講師をされている。大切なのは「材料選び」。「餡は和菓子の命」で、後味が良い餡のために最も砂糖にこだわる。「機械が無い時代、人力で炊けるのは10kgほど。餡を作る日は一日がかり」で炊いたそう。京都の食材を大事にし、丹波大納言など、大粒で皮が薄く香りが良い小豆を選ぶ。丹波大納言は晩成種で栽培期間が長く、生育も労力がかかる。国内でも約1%しか流通せず非常に貴重で高級品種だ。「京菓子は文化。季節感があり、「品」として『名』がつく。向日葵を模した菓子も、『向日葵』とは名付けず、『麦わら帽子』に」と、奥深い京菓子の文化的側面を話された。多様な和菓子も流行っている。時流を楽しみながらも「京菓子の作り方、名前の付け方も考えてくれると嬉しい」と話す先生。その心がなると、「京菓子」はただの菓子にならず、まうのかもしれない。



## 京料理

日

本を代表する文化「和食」。中でも「京料理」は京都の文化に影響され発展したもの。京料理「嵐山熊彦」の二代目店主を務める栗栖基先生は、幼い頃から、家の手伝いをして学生時代に運命を感じて料理人の道へ進まれた。「先代をはじめ、初代からつないでくれた先人が目標です」と語る。この道40年、怒られたことや悔しかったことも多々あったが今は懐かしく、全てが宝で努力の根源だと話す栗栖先生。興味をもっているものを探求するのは、自分の幸福感を得るための道だそう。若い世代は「今の時代にあった日本の料理を楽しめばいい」と激励のメッセージもくだった。お客様にお出した時、五感に訴える料理が栗栖先生の最高の一品。そのために、お客様とカウンターで向き合い、自分の料理に対する想いや哲学などを話して、対話の中からお互いの思いを深く理解し合うよう努めているそうだ。「長い歴史や培ってきた文化が凝縮され、料理に現れる。この贅沢さが京料理の魅力です」と笑顔で締めくくられた。あと5年で「たん熊北店」は100周年、その姉妹店である「嵐山熊彦」は50周年。ますます栗栖先生の努力と研鑽は続いていくのだろうかと思う。



# お茶

日

本では、お茶は古くから愛されている飲み物。中でも1860年創業の宇治茶祇園辻利のお茶は、京都祇園で約70年の歴史がある。長年愛され続ける、その魅力について安田益弘先生、田村咲穂先生にたずねた。アルバイトがきっかけで入社し、茶の作法について学ばれた安田先生は、店へのこだわりについて「宇治茶とつく屋号にふさわしく、添加物や着色料なしの『ほんまもん』を味わってもらいたいことを大切にしています」と話された。芸術が好きで田村先生は「店舗にお越しになったお客様に、どれだけ喜んでもらえるか。いつもそれを大事に考えている」そう。また、今後、お茶について伝えていきたいことを聞くと、「お茶は葉とされてきたほど、健康に良いもの。宇治茶の歴史も含めて多くのことを紹介したい」と安田先生。田村先生は「最近、玉露や抹茶などの風味の濃厚なお茶が海外で人気です。お茶は、時代に合わせて飲み方も変化してきているが、茶葉から丁寧にお茶を入れることや、抹茶の美味しさ、貴重さも伝えていきたい」と、熱く語られた。



添加物や着色料なしの『ほんまもん』の味を伝えたい。





### Q.研究のこだわりは？

村野先生：誰かと一緒にやることです。一人だと狭くなる。特に学生のみなどとやれたら嬉しい。

山本先生：気になったことはなんでもやること。

中村先生：「事実は何か」にこだわります。よく言われている例を信じない。石碑が立っている場所、それは本当に〇〇跡と書いてあるけども本当にそうなのか。石碑を建てた人は何を根拠にここに立てたのか、までこだわります。

河内先生：古文書を専門とするので一文字一文字のことにこだわっています。

山田先生：僕自身は考古学という遺跡遺物を扱うことが専門ですが、文献資料、歴史地理など幅広く見ながら、京都の歴史を組み立てたいと思っています。

### Q.歴史学に興味を持つ学生に伝えたいことは？

山田先生：若いうちは、とにかく何か1つのことにぐっと集中してやった方がいい。山本先生も僕もそうですけど、若い頃に土器をじっくり見たこと、そういうこだわりが今生きています。

河内先生：テレビに出過ぎている専門家を信用しすぎないことですかね（笑）。いつ見ても出てる人は信用してはいけません。

中村先生：人が住んでいるところ、学んでいるところ、身近なところに過去に何があったのかということを知ってほしい。自分の生活環境に過去に何があったのかに意識を持って欲しい。遠いところにもいいものがあるけど、自分の地域にもきつとあるから。

山本先生：古典とか、芸術とか、歴史に関連するいろんな分野、気になったものの基本的な勉強は是非して欲しい。例えば、古代史やろうと思うなら、古事記、日本書紀は一通り読み解く。それを基礎知識として持っていたら、より学問を深められる。

村野先生：学生というより自分にもですが……。今生きてる人、目の前の人を大事にしていきたい。例えば、海外の人、親、兄弟、同級生など。学問は一人じゃ無理。社会生活の中の一部ですから、そこを忘れると研究や社会生活にもバランスが悪くなる。まず目の前の人をきちんと見る。私はそう強く思っています。

### Q.文章を書かれるときに意識されていることは？

中村先生：自分に「こだわりすぎるな」と言うこと。どうしても100点を目指してしまい、泥沼化してしまう。60点でいいから書くように、いつも自分に言います。

河内先生：如何にしてベストセラーにならないか。これを心掛けています（笑）。売れている本にロクなのは無い。どうしたら売れないかっていうことです。

山田先生：学問の水準は下げた方がいいですが、表現とかを工夫してできるだけたくさんの人にわかるような本にしたいなと思っています。

村野先生：紹介しなきゃいけないものをできるだけ早く書く。何年も寝かさないようにするってことです。

山本先生：資料館の仕事をやっているので「お客さんにわかりやすく」を心掛けています。資料館で書いているものは、原則、教科書の内容を踏まえた上で書く。

取材を終え、先生方の研究者としてのこだわりや京都への愛、そして何より御自身がそれぞれの分野で歴史の研究を楽しんでいること、皆さんの人柄などを深く知ることができた。この思いをより多くの人々に届けたいと思った。



山本 雅和 先生

中村 武生 先生

村野 正景 先生

河内 将芳 先生

山田 邦和 先生

取材テーマ

# 京都の歴史

研究を楽しむ、5人の歴史学者に聞く。

京都の歴史を研究する5人の専門家に、それぞれが専門とする分野のお話を聞いた。まず、同志社女子大学で考古学を研究する山田邦和先生。京都生まれの京都育ちで、遺跡・遺物から歴史を研究、古墳時代や特に京都の街の構造の歴史が専門だ。平安京からどのように中世の京都になるのか。考古学の立場から豊臣秀吉の研究もなされている。河内将芳先生は、今、奈良大学で古文書、古記録といった文字史料を使った中世日本史が専門。室町、戦国、織田信長までを掘り下けている。中村武生先生は京都女子大学・大谷大学で、場所での歴史を考える歴史地理が専門。古い時代の記録、文書を使いつつ、そこで読み取れないことは現地を歩いて見出さ

れている。村野正景先生は、京都府京都文化博物館の学芸員。最近では鴨沂高校所蔵の考古資料、絵葉書や地図、写真の整理をされていて、そこから「文化資源学」と名付けて学校や京都の歴史を考えられている。山本雅和先生も山田先生と同じく、京都生まれ京都育ち。現在は京都産業大学の文化学部京都文化学科で教え、京都市考古資料館の館長もされている。大学で古墳時代の勉強をした後、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所で、京都市内の遺跡の発掘調査をなさっていた。その経験から、京都市考古資料館の学芸員も経験されている。専門は「京都の遺跡と遺物」と答えられるそうだが、先生ごとに様々な面白さがあるので、それぞれに同じ質問を試してみた。

れている。村野正景先生は、京都府京都文化博物館の学芸員。最近では鴨沂高校所蔵の考古資料、絵葉書や地図、写真の整理をされていて、そこから「文化資源学」と名付けて学校や京都の歴史を考えられている。山本雅和先生も山田先生と同じく、京都生まれ京都育ち。現在は京都産業大学の文化学部京都文化学科で教え、京都市考古資料館の館長もされている。大学で古墳時代の勉強をした後、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所で、京都市内の遺跡の発掘調査をなさっていた。その経験から、京都市考古資料館の学芸員も経験されている。専門は「京都の遺跡と遺物」と答えられるそうだが、先生ごとに様々な面白さがあるので、それぞれに同じ質問を試してみた。

れている。村野正景先生は、京都府京都文化博物館の学芸員。最近では鴨沂高校所蔵の考古資料、絵葉書や地図、写真の整理をされていて、そこから「文化資源学」と名付けて学校や京都の歴史を考えられている。山本雅和先生も山田先生と同じく、京都生まれ京都育ち。現在は京都産業大学の文化学部京都文化学科で教え、京都市考古資料館の館長もされている。大学で古墳時代の勉強をした後、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所で、京都市内の遺跡の発掘調査をなさっていた。その経験から、京都市考古資料館の学芸員も経験されている。専門は「京都の遺跡と遺物」と答えられるそうだが、先生ごとに様々な面白さがあるので、それぞれに同じ質問を試してみた。



# 京都の地名をリスペクト 記憶に残ってしまおうコインパーキング

## 一緒に探そう！ コンセプトのパーキング

京都の繁華街や、郊外あちこちで見かけるコインパーキング。その看板に目を止める、その名前は「〇〇駅前」や有名な交差点名、他には観光地や大きなランドマークの「××前」…のはずが、この会社のそれは、少し、いやかなり違う。

「丸丸」「エンジェル」「むろがしら」「へい川原町」「大宮ふとん」に「出水チエコ」…左ページの画像を御覧いただきたい。「なんだそれ？そんな地名あったっけ？」と不思議に思ってしまったが、その由来がわかると「うんそっか、そうきたか」と唸らざるを得ないのだ。

掘れば掘るほど深くなり、噛めば噛むほど味がでる卓抜でミステリアスな酒脱なネーミングセンスが光るのは、土地などの資産活用を提案する「株式会社コンセプト」が展開する「株式会社松田香保里様、瀧波卓様にお話を伺った。

**名前に遊び心を加えようとしたきっかけは何ですか？**

「ご利用者様や取引先の方にすぐ覚えてもらい、親しみを感じていただくためです。親しみやすさというか、安堵感というのでしょうか。

**個人的な名前が良かったこと、困ったことがあれば教えてください。**

「良かったことはご利用者様に名前を覚えていただきやすくなったことです。話題にもなりますから。困ったのは近くの施設名になむ名前をつけたら、そこから「使わないで」と言われたこと。看板の架け替えなど大変でした。

**みなさまそれぞれの、お気に入りネーミングは？**

「『嵯峨アリスパーキング』『嵯峨ラビットパーキング』ですね。あ

と、今はなくなりましたが「パラダイスファイブパーキング」は見ただけで良かったですね。（松田さん）

「エンジェルパーキング」可愛い名前でお気に入りです。（瀧波さん）

「かなり以前につけた『ホトケのあぶらパーキング』です。（榎本社長）

（記者注：それぞれどこにあるのか、探してみてください）

お話を聞いて考えたことは、「土地の呼び方」には、呼ぶ人の立場や思想・個性・考え方が出るんだなということだ。地名とは、x軸やy軸のような単なる記号ではないことがよくわかった。ダジャレや縁語、近くのお店をきっかけとし

たちよつとした発見などをとりこんで、魔法のように言葉を紡いで、コインパーキングの呼び方とする。言葉に対する感覚と、なにより京都の町名や通り名に敬意を払っていいとできないことだと感じた。町を歩いていると、「えー、そこが丸御池!？」ということが時々あるのだが、コンセプトのそれにさういうことはない。逆に、知られていない小さな町名やマイナーな通り名を知るきっかけになるのだ。

地名は、多くの人が長い時間共有してきた文化だと思う。それらで遊んでいるようで、実は大切にしている姿は、貴重な「京都の地名文化」の守護神といっても過言ではないのでは？

（画像中の情報は撮影時のもので、現在は変更されていることもあります）



06 「しんからHeadパーキング」ノーヒントでこの場所を特定できたら京都の地名・通り名検定1級合格確定。  
 と同じくこれもご近所さん。



01 「丸丸パーキング」丸は「丸太町通り」だろうが、もう一つの「丸」は？でも「烏丸丸太町」じゃないよ。私たちの場所から歩いてすぐ、通学で毎日見ている人も多い。



07 「松ヶ崎ヒップパーキング」ヘッドがあればヒップもある…これが「コンセプトオリティ」とある大学近くの町名(バス停名)から命名されたようだ。



02 「嵯峨バンビパーキング」可愛いあの世界のキャラクターとどんな関係あるのかな、どうしてバンビと呼ばれるのかな…近くの駅名を見て納得。



08 「まるころパーキング」ひらがなで書いてあるのがかわいいパーキング。これがどこにあるか考えてみよう。「ころ」は烏丸通り西の、南北の通りだよ。



03 「ホリーマパーキング」以前の看板にはカッコがなかったので、これ何かのRPGの呪文かな…と必死で考えた。分かった瞬間、脱力して膝から崩れ落ちた記憶。



09 「たけころパーキング」08の通り一南側にありました。ではそのもう一本南には、どんなコンセプトが待ち受けているのでしょうか…残念、「えびころ」は現時点では存在しません。



04 「シスターカーパーキング」切れ目間違えないで、「シスター」と「カー」の交差点付近。和訳すると謎が解ける。さて、シスターが居るのなら…



10 「ムーンライト二条パーキング」夜になると輝くのかな。幻想世界から抜け出したような、あまりにも詩的なその名の由来は…意外とシンプルでした。



05 「ミカゲ・ブラザーパーキング」ブラザーも居るのは当然。ミカゲは「御蔭通」で下鴨神社の祭礼・御蔭祭もあってそれなりの知名度だが、ブラザー？兄？弟？ああああ、そう来るか…



特集  
**こんな京都**  
 Kyoto column  
**ありますよ**

愛されてもう／まだ10年  
 作り手と受け手の思いがつながる

京都市営地下鉄・市バス  
 応援キャラクターを追って

京都市営地下鉄・京都市バスにはキニートでキャッチーな応援団がついている。その名も『地下鉄に乗るっ』。全国…どころか全世界の『二次元推し』からも注目される『太秦萌』『松賀咲』『小野ミサ』『太秦麗』や『小野麗』『十条タケル』といったキャラクターたちの姿を見ることが出来るのは、今や駅や車内だけではなくとどまらない。

近年増加している『当地キャラ』のトップランナーを走り続ける『地下鉄に乗るっ』は本格的登場から10周年を迎え、ついに昨年あの『京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2023』のメインビジュアルを務めることになった。その人気の秘密は？その魅力の正体は？なぜ京都で受け入れられたのか？関係する方々の思いとは…

「利用促進PRを受け止めてもらうために」

村上菜月さん 京都市交通局企画総務部営業推進課営業推進担当Ⅱ

このキャラクターのねらいを教えてください

当初、地下鉄事業経営健全化の取組として1日5万人増客を柱の一つに据え、平成22年4月に全庁組織である『京都市地下鉄5万人増客推進本部』を立ち上げるとともに、その下部組織として『若手職員増客チーム』が立ち上がりました。そのうちの『燃え燃えチャレンジ』班がこの取組に親しみやすいイメージを持っていただくため、5万人増客に向けたシンボルとなるオリジナルの応援キャラクターを考案し、萌、咲、ミサが誕生しました。

平成25年に地下鉄利用促進ポスターに萌たちを採用するにあたり、地元京都のデザイン会社・ジイケイさんとイラストレーター『賀茂川さん』の手によって、キャラクターデザインをリファインして以降、地下鉄利用促進プロジェクト『地下鉄に乗るっ』として、京都市交通局の地下鉄・市バスの利用促進をPRする様々な広告媒体に活用しています。

「若手職員増客チーム」が当初、考案したキャラクターは職員

キャラクターが出たころの反応はどうでしたか？

「若手職員増客チーム」が当初、考案したキャラクターは職員担当した名倉剛志さん、イラストレーター賀茂川さんや、映画の主題歌を担当したシンガーソングライターといった方々が、このコンテンツとの関わりを振り返り、これからの夢や展望を語る…だけではなく、それらをたくさんのファンと共有し、交流するという濃密な時間が展開された。

ファンミーティングに参加して…

昨年の9月16日に実施の『京まふ2023』のステージイベント、また、それに前後して『地下鉄に乗るっ』の10周年を語る』と題したトークイベントやライブが、アニメ制作会社・魚雷映蔵主催のもと、京都各所で複数回行われた。過去に『地下鉄に乗るっ』のアニメやCMを制作された魚雷映蔵の代表佐野リョウタさん、ジイケイ京都でキャラクターのリファインを



左から2番目が『太秦萌』。キャラクターの原型は職員の家族が描いたイラストだったという(京都市交通局『おふたいむNo135』2012年1月号)



メインキャラ。左から小野ミサ、松賀咲、太秦萌。地下鉄の駅名が名前の由来(2015)



ひときわ輝くキャラたち(2019)



等身大パネルがならぶ烏丸御池駅ギャラリー。カメラを向けるファンの姿も(2023) ※展示は終了しました



短編アニメのクラウドファンディングは2016年3月に開始され、数時間で目標金額をクリアし、最終的には予定の10倍を超える金額が集まったという。2017年に完成し、京都シネマで上映された。現在も動画サイトで公開され、再生回数は2023年11月現在で63万、高評価数1.5万となっている。

担当した名倉剛志さん、イラストレーター賀茂川さんや、映画の主題歌を担当したシンガーソングライターといった方々が、このコンテンツとの関わりを振り返り、これからの夢や展望を語る…だけではなく、それらをたくさんのファンと共有し、交流するという濃密な時間が展開された。

そこで語られたのは、日常の京都に焦点を当てた、すっきりとした統一の世界観を作り手側が共有してきたこと。年代・性別・嗜好性を超えて受け入れられるための、各キャラクターの性格や服装・髪型・アイテムなど細部にわたるこだわり。そして、あくまでも京都の公共交通機関の利用促進につながる意識を持ち続けたこと…など、佐野さんの『ライフワークのひとつです』という言葉通り、作り手側の『覚悟』が感じられるものであった。それ以外にも、今だから明かせる裏話や、幻のキャラクターの存在など、駆け付けた熱心なファンはもちろん、その思いは「少しだけ興味はあるが…」「何か面白そうなポスターだな…」という層にも届いたようで、大いに楽しめる内容であった。

ライトノベル化、人気コミックへのゲスト出演、クラウドファンディングによる短編アニメ制作、そして京都を代表する企業や商品とのコラボ…。10年間の活躍をこのスペースですべて紹介するのは難しい。しかし、2019年、イギリスはロンドンの大英博物館で開催された展覧会『日本のマンガ展』に触れないわけにはいかない。誰もが知る、日本を代表する人気漫画が軒並み紹介されたこの展覧会では『地下鉄に乗るっ』が大きく紹介されたのだ。一つの到達点であり、そして国際的な場への発展とみてよいだろう。

長い歴史の中で、京都という場で、京都を舞台にして生み出された新たな絵画・映像表現となると、数えきれないくらいあるはずだ。21世紀に誕生したこの『地下鉄に乗るっ』も、この先の10年、いや100年、1000年…と、愛され、受け継がれていく可能性を信じていたい。

**【最新情報】**  
 10周年を機に、次の展開を狙って進められた新たなクラウドファンディングが本記事執筆中に締め切られたのだが…集まった金額は当初の目標額の5倍を超えた!

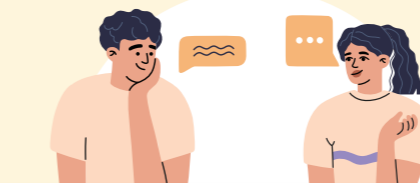


## 国際交流

# 姉妹校「ジュールゲード」国際高校との交流



鴨沂高校では、姉妹校であるフランスオクシタニ州モンペリエ市ジュールゲード国際高校生や、大学留学生、中国・台湾・香港などの高校生などと国際的な交流を実施しています。ジュールゲード高校生が来校した際は、本校生徒が学校や京都御苑などについて、ガイドマップや紹介動画、紹介アプリを作成し案内したり、文化交流を実施したりすることで、「国際交流の在り方」や「文化発信の在り方」等について学んでいます。以下は、今年度10月にジュールゲード高校生20人が来校し交流した際の生徒感想の抜粋です。



### 生徒感想抜粋

普段何気ないものだと思う京都の風景や建物、フランスの方に「すごくステキ・美しい」というふうに言ってもらえることができ、私もまだまだ知らない京都のことを知りたいと思いました。また、フランスの方はすごくアクティブで日本のことを積極的に知ろうとしてくれる姿から、多文化を知ろうとすることは大切なことだと気づきました。

初めはコミュニケーションをうまくとることができるか不安でしたが、フランスの方は日本語がすごく上手で、翻訳アプリなしで会話をすることができたことが嬉しかったです。また、日本の文化にすごく興味を持ち、様々なことを積極的に質問してくれ、普段あまり目を向けない京都のことに自分自身も興味を持ち、紹介することができてよかったです。

華道を通して多くのことを学びました。これからの魅力を様々な場所で広めてほしいと思う。

華道は使う花や花器、花を生ける配置など考えることが多いため個性が顕著に現れて面白いと思いました。

茶道はお茶を点てることに意味があると思っていましたが、作法や礼儀、精神など言葉では表せない「伝統的な美」があると思いました。

茶道にこれまで少しも触れてこなかったが、先生のお話を聞いていると、その熱意や信念を感じることができて本当に感動しました。おそらくこの授業がなければ、こういうことはなかったと思うのですごく貴重な体験になった。

自分は部活動で「茶道」も「能」もやっていたが、改めて両方見つめ直すことができました。これからは何らかの形で関わってみたいです。

「茶道」というものは、日本文化の思想、四季など様々なものが取り込まれたものだとなりました。

この冊子を作るにあたって、文化に少し詳しくなれました。きっとこれも何かの縁、皆さんも善き文化体験を。

京都の産業や文化、歴史の伝承が長く続きますようにの意味を込めて、「Lasting Kyoto」。

私たちの視点では知ることでできない、文化に関わる方だからこそ意見を聞けたので、楽しかったです。

組紐を実際に体験してみても組み方に無限のパターンがあるという面白さを発見できました。

組紐など京都の産業文化を研究している方に、少人数でインタビューすることで、大規模でインタビューするより細かく文化について知ることができて良かったです。

京都文化を支えている方にインタビューできたのは貴重な経験でした。身近に感じられる良い機会でした。

良い経験になりました。

芸術を鑑賞するにあたって、今まで自分が気が付かなかった大切なことを教えていただき勉強になりました。

百聞は一見にしかず、皆さんにも一度実践的に伝統文化に触れていただきたいです。

京セラ美術館で実際に様々な企画をされている方のお話を聞けて、すごく勉強になりました。

今回インタビューをして知らなかった京都の素晴らしさを知ることができてとてもよかったです。

藤田先生に取材して、子供や障がい者の方を交えた美術鑑賞の取り組みについて知ることができてよかったです。

## 編集後記

和菓子職人になることの難しさや、和菓子をつくる時の材料から名前までのこだわりを知ることができて良かったです。

体験談やこれからの和菓子の事について、過去と未来の話をどちらも聞けて良かったです。

第一線で活躍されている先生に直接お話できる貴重な体験ができて嬉しかったです。

直接、質問する事で、京料理の若者後継者問題などを詳しく聞くことができたのでよかったです。

インタビュアーをさせてもらい、用意した質問について、色々な事を丁寧に伺うことができました。

私は、京菓子について保木さんにインタビューをして、今後も京菓子の文化を続けていってほしいと思いました。

貴重な意見を聞かせていただいて楽しかったです。

伝統を守ってきた職人の方はすごいと感動しました。また、貴重な話を聞けて楽しかったです。

お茶の歴史と辻利のこだわりなど詳しいことを聞けて、貴重な体験ができました。お話をうまくまとめることができず、編集は難しかったです。

歴史のあるお店の方とお話してきたことが貴重な体験になりました。私が抹茶好きなので辻利さんのこだわりなど様々なことが聞けて嬉しかったです。

インタビューに答えてくださった方の思いを、どれだけ上手くまとめられたか自信はないですが、工夫して書くのは楽しかったです。

お茶のことも、辻利さんのことも、研究やインタビューを通して知ることができ、非常に貴重な体験がとてもよかったです。

先生方の研究に対する熱意、こだわりを直に感じられて良かったです。

それぞれの先生たちで異なる考えをお持ちになっていらしゃった。

専門家の方々それぞれの異なる歴史への向き合い方を知ることができました。とても貴重な体験ができて良かったです。

**教員**  
ずっと自分が気になっていたことをまとめることができました。お世話になった方々に感謝申し上げます。

**教員**  
一人では無理でも、皆で取り組めば素晴らしい成果が得られます。この体験をこれからの人生でぜひ生かしてほしいと思います。

**編集・制作**  
大好きだった母校の冊子制作に携わらせてもらえたことが本当に嬉しく幸せに思います。